

令和5年度 教育計画(シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
普通科 理数科学科・人文社会科学科	1	地理歴史	地理総合	2
教科書		補助教材		
高等学校新地理総合・新詳高等地図(帝国書院)		新詳地理資料COMPLETE2022(帝国書院)		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 世界各地に興味関心をもち、現代世界が抱える諸課題の解決に向けて主体的に取り組む態度を養う。 地理的認識を深めながら、地理的技能や地理の見方・考え方を習得する。 主体的に社会の形成に参画する態度を身につける。 			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解する。地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。	位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、説明したりする力を養う。	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。	
学習の評価	<ul style="list-style-type: none"> 【知識・技能】 定期考査で、それらをはかる基本的な問いを設定し、その結果から評価する。 【思考・判断・表現】 定期考査で、史資料や統計・地図等を用いた問いを設定し、その結果から評価する。授業や課題への取り組みなどから総合的に評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】 授業や考査、課題への取り組みなどから総合的に評価する。 			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価規準)		
第1部 地図でとらえる現代世界 第1章 地図と地理情報システム 1節 地球上の位置と時差 2節 地図の役割と種類 第2章 結び付きを深める現代世界 1節 現代世界の国家と領域 2節 グローバル化する世界		<ul style="list-style-type: none"> 地図の役割や有用性を理解する。 位置や分布などに着目して、地図やGISの活用方法について考える。 国際社会における国家の役割を理解する。 位置や分布に着目しながら、地域間のさまざまな相互関係について考える。 交通や通信が発達し、観光客が増えたり貿易が拡大したりしたことによって、国際社会におけるヒト・モノ・カネの動きはどのように変化したかを考える。 		
第2部 国際理解と国際協力 第1章 生活文化の多様性と国際理解 1節 世界の地形と人々の生活 2節 世界の気候と人々の生活 3節 世界の言語・宗教と人々の生活 4節 歴史的背景と人々の生活 5節 世界の産業と人々の生活 第2章 地球的課題と国際協力 1節 複雑に絡み合う地球的課題 2節 地球環境問題 3節 資源・エネルギー問題 4節 人口問題 5節 食料問題 6節 都市・居住問題		<ul style="list-style-type: none"> 場所や人間と自然の関わりなどに着目して、世界各地の生活文化の特徴を理解する。 生活文化の多様性の背景や変化の理由を考える。 地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口問題、食料問題、都市・居住問題などの地球的課題を理解するとともに、その解決に向けては世界的な取り組みが不可欠であることを知る。 他地域との結び付きや地域の特徴などに着目しながら、持続可能な社会をつくるために、今後どのような取り組みが必要かを考える。 		
第3部 持続可能な地域づくりと私たち 第1章 自然環境と防災 1節 日本の自然環境 2節 地震・津波と防災 3節 火山災害と防災 4節 気象災害と防災 5節 自然災害への備え 第2章 生活圏の調査と地域の展望 1節 生活圏の調査と地域の展望		<ul style="list-style-type: none"> 自然環境の特徴を正しく理解する。 自然災害に備えた対策、課題の解決に向けて、人間と自然の関わりや地域の特徴に着目して、災害に強い地域づくりについて考える。 他地域との結び付き、地域の成り立ちや変化などに着目して、生活圏が抱える課題を探究し、社会参画の在り方について考える。 		

令和5年度 教育計画(シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
普通科 理数学科 人文社会科学科	1	地理歴史	歴史総合	2
教科書		補助教材		
歴史総合 近代から現代へ (山川出版社)		新詳歴史総合(浜島書店) ふるさと富山(富山県教育委員会)		
到達目標	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	中学校で修得した日本史の知識を基礎にして、近代・現代を中心とした世界史の概要を理解する中で、改めて日本史を捉えられるよう、修得した知識を連携できるようになる。	授業等で修得した知識とそれらの連携から、文化の多様性、複雑な多国間関係を広い視野から考察し、今まさに展開されている社会事象の背景を理解し、重層的に判断できるようになる。	国際社会での出来事を「我がこと」と捉える態度を会得し、自らが解決を図るべき課題をみつけ、将来、民主的・平和的な社会の一員として「国際社会の恒久平和を希求する」自覚と資質を養う。	
学習の評価	【知識・技能】 定期考査で、それらをはかる基本的な問を設定し、その結果から評価する。 【思考・判断・表現】 定期考査で、史資料や統計・地図等を用いた初出の問を設定し、その結果から評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】 授業や考査、課題でのとりくみなどから総合的に評価する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価規準)		
<ul style="list-style-type: none"> ・条約改正と日清戦争 ・帝国主義と列強の展開 ・世界分割と列強の対立 ・日露戦争とその影響 		<ul style="list-style-type: none"> ・日清戦争が日本、清、朝鮮の3国にもたらした変化 ・帝国主義政策が進められた理由 ・欧州列強がアジア、アフリカで展開した植民地獲得競争の展開 ・日露戦争の起こった理由と日本の勝利がアジアに与えた影響 		
<ul style="list-style-type: none"> ・第一次世界大戦と大衆社会 ・国際平和と安全保障 ・アジア・アフリカの民族運動 ・大衆消費社会と市民生活の変容 ・社会労働運動の進展 ・経済危機と第二次世界大戦 世界恐慌とその影響 ファシズムの台頭 		<ul style="list-style-type: none"> ・第一次大戦が起きた理由と各国の社会、国際秩序に与えた変化 ・第一次大戦後の国際秩序の枠組みとそれらの内容 ・ヨーロッパ各国の内政に起きた変化 ・第一次大戦がアジア、アフリカ諸地域に与えた影響と変化 ・大衆消費社会の内実と日本における展開 ・「大正デモクラシー」の背景と日本の政治や社会に与えた影響 ・世界恐慌に対する各国の政策と、それらによる国際秩序の変化 ・ファシズムが台頭した背景とそれらに対する各国の対応 		
<ul style="list-style-type: none"> ・日本の恐慌と満州事変・日中戦争 ・第二次世界大戦と太平洋戦争 ・戦後の国際秩序 		<ul style="list-style-type: none"> ・日本で政党政治が断絶した背景と国際社会での日本の立ち位置 ・日中戦争が国際社会に与えた影響と戦争が長期化した背景 ・第二次大戦の背景と経過、戦後の国際社会に与えた影響 ・第二次大戦から得た教訓と冷戦構造 ・グローバル化の意味するところと日本 <p>以上の項目について、理解し表現することを目標とする。</p>		

令和5年度 教育計画(シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
普通科 理数科学科 人文社会科学科	2	地理歴史	地理探究	2
教科書		補助教材		
<ul style="list-style-type: none"> ・地理探究(二宮書店) ・新詳高等地図(帝国書院) 		<ul style="list-style-type: none"> ・新詳地理資料COMPLETE2022(帝国書院) ・データブック オブ・ザ・ワールド2022年版(二宮書店) 		
到達目標	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	<ul style="list-style-type: none"> ・規則性や傾向性、人間の生活との関わりなどについて理解することができる。 ・地図やGISなどを用いて、様々な情報を適切に読み取り、まとめることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境や資源と産業などと人間の生活との関わりについて注目して、多面的・多角的に考察し、表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・よりよい社会の実現を視野に、ここで見られる課題を主体的に追究しようとしている。 	
学習の評価	<ul style="list-style-type: none"> 【知識・技能】 定期考査で、それらをはかる基本的な問いを設定し、その結果から評価する。 【思考・判断・表現】 定期考査で、史資料や統計・地図等を用いた初出の問いを設定し、その結果から評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】 授業や考査、課題でのとりくみなどから総合的に評価する。 			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価規準)		
第1章 自然環境 ① 地形 ② 気候と生態系		<ul style="list-style-type: none"> ・地形に関わる諸事象の規則性、傾向性や、人間による利用などについて理解することができる。 ・地形の分布や成因などに注目して、「平野の地形はどのように利用されてきたのだろうか」などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。 ・気候と生態系に関わる諸事象の規則性、傾向性や、気候に地域性などについて理解することができる。 ・大気大循環のしくみや影響などに注目して、「地域による気候の違いにはどのような背景があるのだろうか」などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。 		
③ 世界各地の自然と生活 ④ 日本の自然環境と防災 ⑤ 地球環境問題 第2章 資源と産業 ① 農林水産業		<ul style="list-style-type: none"> ・世界各地の自然と生活に関わる諸事象の規則性、傾向性や、気候区分の方法などについて理解することができる。 ・気候の特徴と人々の暮らしとの関係性に注目して、「厳しい自然環境の中で人々はどのように工夫して暮らしているのだろうか」などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。 ・日本の自然環境と自然災害の関係などに注目して、「自然災害にどのように対処すればよいだろうか」などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。 ・気候や環境の変化などに注目して、「地球温暖化は生態系や人間生活にどのような影響を与えているのだろうか」などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。 ・農林水産業に関わる諸事象の規則性、傾向性や、食料問題の現状や要因、解決に向けた取り組みなどについて理解することができる。 ・農林水産業の条件や変化などに注目して、「世界の栄養不足人口の分布に地域 		
② 資源・エネルギー ③ 工業		<ul style="list-style-type: none"> ・資源・エネルギーに関わる諸事象の規則性、傾向性や、資源・エネルギー問題の現状や要因、解決に向けた取り組みなどについて理解することができる。 ・資源産地の分布や消費地との結びつきなどに注目して、「資源の産出と消費にはどのような地域的な特徴と地域的結びつきがみられるか」などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。 ・工業に関わる諸事象の規則性、傾向性や、工業生産のグローバル化に伴う諸課題の現状や要因、解決に向けた取り組みなどについて理解することができる。 ・工業立地や変化などに注目して、「知識集約型産業は今後どのように展開していくのだろうか」などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。 		

令和5年度 教育計画(シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
普通科 理数科学科 人文社会科学科	2	地理歴史	日本史探究	2
教科書		補助教材		
詳説日本史(山川出版)		図説日本史通覧(帝国書院)・新編史料日本史(とうほう) ・日本史用語集(山川出版)		
到達目標	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。	
学習の評価	【知識・技能】 定期考査で、それらをはかる基本的な問を設定し、その結果から評価する。 【思考・判断・表現】 定期考査で、史資料や統計等を用いた初出の問を設定し、その結果から評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】 授業や考査、課題でのとりくみなどから総合的に評価する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価規準)		
第1部 原始・古代 第1章 日本文化のあけぼの 第2章 古墳とヤマト政権 第3章 律令国家の形成 第4章 貴族政治の展開		<ul style="list-style-type: none"> ・人類文化の発生を考え、日本列島における旧石器文化・縄文文化の時代の社会を理解するとともに、打製石器・磨製石器・縄文土器の発掘、竪穴住居の状況など考古学の成果によって教科書の叙述が成り立っていることに気づく。 ・集落・墓の変容から富の蓄積を理解し、小国が形成される過程を東アジア世界との交流と関連づけて考察し、原始社会の特色についての考察を踏まえ、時代を通観する問いを表現する。 ・律令国家の形成や貴族政治の展開について深く理解するとともに、政治と文化との関係について考察する。 		
第2部 中世 第5章 院政と武士の躍進 第6章 武家政権の成立 第7章 武家社会の成長		<ul style="list-style-type: none"> ・院政期から鎌倉・室町幕府の時代を経て、権力のあり方がどのように変遷したのか理解するとともに、日本諸地域の動向などを踏まえて考察する。 ・各時代の文化についても、時の政権との関係やその発展のあり方、庶民の生活など多岐にわたる面から理解し、表現することができる。 		
第3部 近世 第8章 近世の幕開け 第9章 幕藩体制の成立と展開 第10章 幕藩体制の動揺		<ul style="list-style-type: none"> ・大航海時代と呼ばれる世界史的背景を踏まえて、ヨーロッパ人の東アジアへの進出とその影響を考察する。 ・織田信長の統一事業、豊臣秀吉の天下統一、秀吉の朝鮮侵略と続く織豊政権の特色と意義、その後の時代への影響について理解する。 ・中世から近世への変化について考察し、時代を通観する問いを表現する。 ・江戸幕府の鎖国政策について、単なる対外貿易の遮断ではないことを理解し、鎖国後の貿易関係の在り方も含めてその影響と歴史的意義について考察する。 ・文化について、学問・思想・教育・文学・美術・生活文化の新たな展開に着目し、江戸と地方の文化的交流にも留意して考察する。 		
第4部 近代・現代 第11章 近世から近代へ 第12章 近代国家の成立 第13章 近代国家の展開 第14章 近代の産業と生活 第15章 恐慌と第二次世界大戦 第16章 占領下の日本 第17章 高度成長の時代 第18章 激動する世界と日本		<ul style="list-style-type: none"> ・国際社会に組み込まれるという国際環境の変化に着目して、日本の開国を社会・経済面での変化と関わらせて考察する。 ・幕末の動乱における天皇を中心とする統一国家構想の芽生えから幕府の滅亡、旧幕勢力の一扫に至るまでの経過を理解する。 ・近世から近代への変化について考察し、時代を通観する問いを表現する。 ・諸資料から適切に読み取った情報をもとに、近代・現代の歴史について仮説を表現して展望する。 ・明治期に欧米列強を意識し、富国強兵を志していったこと、第二次世界大戦までの軍国化の流れや敗戦後の日本にどのようにつながっているか理解する。 ・災害を題材に、諸資料から情報を読み取って考察し、それを表現する方法を学ぶ。 ・事例を参考に、自ら適切な主題を設定して歴史を探究し、表現する。 		

令和5年度 教育計画(シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
普通科 人文社会科学科	2	地理歴史	世界史探究	2
教科書		補助教材		
詳説世界史 (山川出版社)		最新世界史図説タペストリー二十一訂版(帝国書院)		
到達目標	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	世界の歴史についての基本的知識を身に付けるとともに、歴史の大きな枠組みと流れを把握している。	授業等で修得した知識とそれらの関連から、文化の多様性、複雑な多国間関係を多面的・多角的に考察し、今日の社会事象について重層的に判断する力を養う。	国際社会での出来事を「我がこと」と捉える態度を会得し、自らが解決を図るべき課題をみつけ、将来、民主的・平和的な社会の一員として「国際社会の恒久平和を希求する」自覚と資質を養う。	
学習の評価	【知識・技能】 定期考査で、それらをはかる基本的な問を設定し、その結果から評価する。 【思考・判断・表現】 定期考査で、史資料や統計・地図等を用いた初出の問を設定し、その結果から評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】 授業や考査、課題でのとりくみなどから総合的に評価する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価規準)		
<ul style="list-style-type: none"> ・オリエント世界の成立と展開 ・ギリシア世界とヘレニズム ・ローマとキリスト教 ・南アジアの古代王朝 ・東アジア文化圏の形成 ・東アジア世界の展開 		<ul style="list-style-type: none"> ・古代文明に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連 ・ギリシア人の社会の特徴と、ヨーロッパ文明への影響 ・ローマの地中海世界への影響、その後のヨーロッパ文明への影響 ・南アジアの文化的・宗教的特色 ・秦・漢の支配体制と地域間の結びつき ・東アジアと中央ユーラシアの歴史に関わる諸事象の背景や原因、事象相互の関連 		
<ul style="list-style-type: none"> ・イスラーム教の成立と拡大 ・ヨーロッパ世界の形成と変容 ・モンゴルの大帝国 		<ul style="list-style-type: none"> ・イスラーム教の特徴とイスラーム世界拡大の背景 ・ゲルマン民族移動後の東西ヨーロッパの特徴と宗教的特質 ・諸地域間の宗教や科学・技術および文化・思想の伝播・交流と、その影響 ・モンゴル帝国成立の背景 ・モンゴル帝国が可能とした東西交流とその影響 		
<ul style="list-style-type: none"> ・大交易・大交流の時代 ・アジアの諸帝国の繁栄 ・近世ヨーロッパ世界の動向 		<ul style="list-style-type: none"> ・「世界の一体化」の背景と、その進行による諸地域の変貌 ・アジアの諸帝国の繁栄の様とその背景 ・明代と清代とでの、周辺諸国と中国の関係の違い ・ルネサンスの革新性と限界 ・宗教改革の歴史的意義と影響 ・主権国家体制の成立の背景と影響 <p>以上の項目について、理解、考察、表現することを目標とする。</p>		

令和5年度 教育計画(シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
普通科 理数科学科 人文社会科学科	2	公民	公共	2
教科書		補助教材		
詳述公共(実教出版)		2023ズームアップ公共資料(実教出版)		
到達目標	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。	
学習の評価	【知識・技能】 定期考査で、それらをはかる基本的な問を設定し、その結果から評価する。 【思考・判断・表現】 定期考査で、資料や統計等を用いた初出の問を設定し、その結果から評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】 授業や考査、課題でのとりくみなどから総合的に評価する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価規準)		
第1編 公共の扉 第1章 社会を作る私たち 第2章 人間としてよく生きる 第3章 民主社会の倫理 第4章 民主国家における基本原理	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身が、自主的によりよい公共的な空間を作り出していこうとする自立した主体になることが、自らのキャリア形成とともにによりよい社会の形成に結び付くことについて理解する。 ・社会に参画する自立した主体とは、孤立して生きるのではなく、地域社会などの様々な集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察し、表現することができる。 ・人間は、個人として相互に尊重されるべき存在であるとともに、対話を通して互いの様々な立場を理解し高め合うことのできる社会的な存在であること、伝統や文化、先人の取組や知恵に触れたりすることなどを通して、自らの価値観を形成するとともに他者の価値観を尊重することができるようになる存在であることについて理解する。 ・倫理的価値の判断において、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方と、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などを活用し、自らも他者も共に納得できる解決方法を見いだすことに向け、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、人間としての在り方生き方を多面的・多角的に考察し、表現することができる。 			
第2編 よりよい社会の形成に参加する私たち 第1章 日本国憲法の基本的性格 第2章 日本の政治機構と政治参加 第3章 現代の経済社会 第4章 経済活動のあり方と国民福祉 第5章 国際政治の動向と課題 第6章 国際経済の動向と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・法や規範の意義及び役割などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、憲法の下、適正な手続きに則り、法や規範に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し、個人や社会の紛争を調停、解決することなどを通して、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解する。 ・政治参加と公正な世論の形成、地方自治などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、よりよい社会は、憲法の下、個人が議論に参加し、意見や利害の対立状況を調整して合意を形成することなどを通して築かれるものであることについて理解する。 ・多様な契約及び消費者の権利と責任、職業選択、雇用と労働問題、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られること、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていること及びより活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて理解する。 ・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付ける。 ・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現することができる。 			
第3編 持続可能な社会づくりの主体となる私たち	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の創造、よりよい国家・社会の構築及び平和で安定した国際社会の形成へ主体的に参画し、共に生きる社会を築くという観点から課題を見だし、その課題の解決に向けて事実を基に協働して考察、構想し、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして、論拠を基に自分の考えを説明、論述させる。 ・この科目のまとめとして位置付け、社会的な見方・考え方を総合的に働かせ、第1部で身に付けた選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理などを活用するとともに、第1部及び第2部で扱った課題などへの関心を一層高める。 ・個人を起点として、自立、協働の観点から、多様性を尊重し、合意形成や社会参画を視野に入れながら探究する。 			

令和5年度 教育計画 (シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
普通科・人文社会科学科・理数科学科	3	地理歴史	日本史B	4・3
教科書		補助教材		
詳説日本史B 改訂版(山川出版社)		図説日本史通覧・史料日本史・日本史用語集		
到達目標	1 わが国の歴史の枠組みや流れを理解させ、基本的な知識を身に付けさせる。 2 歴史事象の原因や背景、因果関係などを多面的に追求し、歴史の見方・考え方を身に付けさせる。 3 わが国の歴史の展開を、世界的視野に立って総合的に考察させ、自国の文化と伝統の特色について認識を深めさせる。			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③資料活用 of 技能	④知識・理解
	日本史に対する興味・関心を高め、課題や疑問に対して意欲的に追求しようとする。	日本史を世界的視野に立って総合的に考察し、自国の文化と伝統の特色について認識を深め、公正に判断し、その過程や結果を適切に表現している	歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して、歴史的な見方・考え方を身に付ける。	歴史の大きな枠組みと流れを把握し、基本的知識を身に付けるとともに、それぞれの時代背景を理解し、その知識を身に付ける。
学習の評価	1 定期考査で②「思考・判断」、③「表現」、④「知識・理解」を評価する。 2 課題の提出状況及び確認テストで①「関心・意欲・態度」を評価し、授業中の諸資料の活用で③「技能・表現」を評価する。1の評価に2を加味し、総合的に評価する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価規準)		
第IV部 近代・現代 第9章 近代国家の成立		<ul style="list-style-type: none"> ・国際社会に組み込まれるという国際環境の変化に着目して、開国から明治維新に至るまでの過程を社会・経済面での変化と関わらせて考察する。 ・明治新政府の制度改革や富国強兵・殖産興業政策に着目して、明治初期の政治的変革と国家的統一過程を考察する。 ・政府の強力な中央集権体制の志向の中、自由民権運動の始まりから立憲国家の成立に至る間、近代国家の基盤が形成されていく過程を考察する。 ・開戦に至る国際関係や、日露戦争の経過、戦後の日本の国際的地位の変化と植民地支配の推進を諸外国の動向と関連付けて考察する。 ・伝統的な文化のうえに欧米文化を摂取するなど二元性を持って成立した近代文化の特色について、政治・経済・外交などの視点をもって考察する。 		
第10章 二つの世界大戦とアジア 第11章 占領下の日本		<ul style="list-style-type: none"> ・第一次世界大戦前後の政治の動向及び対外政策の推移について、政党政治の発展や日本の中国進出の状況を踏まえて考察する。 ・ワシントン体制に至る国際的協調体制の進展など国際環境の推移を、日本の立場に着目して考察する。 ・労働者や都市中間層の拡大による大衆社会の基盤の成立に着目し、都市化や国民生活の変化を踏まえて、市民文化の特色について考察する。 ・戦後恐慌から昭和恐慌に至る国内経済の動揺について、国内・国外の経済状況と対策に着目して理解する。 ・日本の対外政策の推移について、世界情勢や軍部の政治的進出に着目して、政党内閣の崩壊や国際的孤立の過程について考察する。 ・日中戦争の勃発から太平洋戦争の突入にいたる過程について、国民生活の変化や諸統制に着目して全体主義的な国家体制の進展を考察する。 ・戦後の世界秩序を踏まえ、占領政策及び戦後の民主化政策とそれに伴う諸改革について、その経過と内容を考察する。 ・東アジア情勢の変化を踏まえ、連合国による占領が終結し、日本が独立した意義を考える。 		
第12章 高度成長の時代 第13章 激動する世界と日本		<ul style="list-style-type: none"> ・独立後の日本国内政治について、衆議院を保守・革新の二大勢力が占める55年体制の成立から安定した保守政権となるまでの経過を考察する。 ・朝鮮特需による経済復興とその後の高度経済成長について、経済の国際化と国内の技術革新などの側面に着目して考察する。 ・ドル＝ショックや、石油危機を踏まえて、主要先進国首脳会議が開かれた意義を考察する。 ・冷戦体制の終結とそれに関わる国内の状況について、日本の政治・外交・経済・生活文化面を踏まえて多面的・多角的にとらえる 		

令和5年度 教育計画

(シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
普通科・理数科学科・人文社会科学科	3	地理歴史	地理B	4・3
教科書		補助教材		
新編詳解地理B 改訂版(二宮書店)、新詳高等地図(帝国書院)		新詳地理資料2022(帝国書院)、2022データブック・オブ・ザ・ワールド(二宮書店)、『22サクシード(啓隆社)、ウィニングコンパス 地理の整理と演習(とうほう)		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地理的事象の展開から空間的諸条件と人間生活の相互作用を読み解き、現代社会における諸課題の要因について考察することができる。 ・自然地理学および人文地理学の基礎的な見方・考え方を土台として、世界各地域の地誌について理解することができる。 ・地理的認識を深め、地理的な見方・考え方を培う学習を通して、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。 			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③資料活用の技能	④知識・理解
	現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとする。	現代世界の地理的事象から課題を見だし、それを系統地理的、地誌的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえて公正に判断し、その過程や結果を適正に表現している。	地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択、活用することを通して現代世界の地理的事象を追究する技能を身に付ける。	現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。
学習の評価	1 定期考査で②「思考・判断・表現」、③「資料活用の技能」、④「知識・理解」を評価する。 2 課題の提出状況及び確認テストで①「関心・意欲・態度」を評価し、授業中の諸資料の活用で③「技能」を評価する。1の評価に2を加味し、総合的に評価する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価規準)		
第Ⅱ編 現代社会の系統地理的考察 第2章 資源と産業 第2節 資源・エネルギー 第3節 工業 第4節 流通と消費		<ul style="list-style-type: none"> ・現代世界の資源・エネルギーに関する問題について、世界的視野からみた地域的特性や成立要因を理解している。 ・世界の工業の分布や動向に関する基礎的・基本的な知識や概念、グローバル化に伴う変化について理解し、その知識を身に付けている。 ・世界の交通・通信・貿易・商業・観光の現状を捉え、その動向に関する基礎的・基本的な知識や概念を理解している。 		
第3章 人口と村落・都市 第1節 人口 第2節 村落・都市 第4章 生活文化と民族と宗教 第1節 衣食住 第2節 言語と宗教 第3章 民族と国家		<ul style="list-style-type: none"> ・地域における人口構成や推移を分析・考察するための地理的思考力を身につけている。また、人口増加地域および減少地域の実態に関して現代社会の動向を踏まえて理解することができる。 ・世界の村落・都市の分布および形態に関して、空間的または社会的な諸条件から説明することができる。 ・世界の衣食住の分布や変容について、空間的諸条件との相互関係およびグローバル化の文脈の中で捉える視点や方法を身に付けている。 ・世界の民族・宗教の分布について基礎的・基本的な知識や概念を理解している。 ・現代世界の民族・領土問題について、歴史、宗教、言語、資源などの観点から多角的に考察することができる。 ・日本の領土問題について基礎的・基本的な知識や概念を理解している。 		
第Ⅲ編 現代世界の地誌的考察 第1章 現代社会の地域区分 第2章 現代社会の諸地域 第1節 中国 第2節 韓国 第3節 東南アジア 第4節 インド 第5節 西アジア・東アジア 第6節 アフリカ 第7節 EU 第8節 ドイツとポーランド 第9節 ロシア 第10節 アメリカ 第11節 ブラジル 第12節 オーストラリアとカナダ 第3章 現代世界と日本 第1節 世界の中の日本 第2節 持続可能な社会を目指して		<ul style="list-style-type: none"> ・地域の概念や地域区分の意義、有用性を理解し、地域区分の知識を方法を身につけている。 ・地域区分の学習を通して、現代世界の多様性・多面性について理解している。 ・中国の歴史的背景や、経済発展をささえる工業、農業、人口、地域格差について、その特色や課題を理解し、知識として身に付けている。 ・韓国の歴史的背景や、文化、工業や農業の変化、経済発展について、その特色や課題を理解し、知識として身に付けている。 ・東南アジアの歴史的背景や、民族、自然と資源、農業、工業化と経済成長について、その特色や課題を理解し、知識として身に付けている。 ・インドの歴史的背景や、文化・工業や農村の変化、経済発展について、その特色や課題を理解し、知識として身に付けている。 ・西・中央アジアの歴史的背景や、自然や農牧業、鉱工業、宗教と生活について、その特色や課題を理解し、知識として身に付けている。 ・アフリカの自然と農牧業、鉱工業と貿易、紛争について、その特色や課題を理解し、知識として身に付けている。 ・ヨーロッパの歴史的背景や、自然、農業、鉱工業、言語と宗教、都市と交通について、その特色や課題を理解し、知識として身に付けている。 ・ドイツとポーランドの歴史的背景や、自然や民族、経済成長について、その特色や課題を理解し、知識として身に付けている。 ・ロシアの歴史的背景や、産業・生活の変化、資源開発、世界との結び付きについて、その特色や課題を理解し、知識として身に付けている。 ・アメリカの歴史的背景や、自然、農業、鉱工業、文化、都市化について、その特色や課題を理解し、知識として身に付けている。 ・ブラジルの歴史的背景や、民族、自然、農業、資源開発と工業発展について、その特色や課題を理解し、知識として身に付けている。 ・オーストラリアとカナダの土地開発の歴史や変容、資源や産業について、その特色や課題を理解し、知識として身に付けている。 ・自然災害や資源小国、人口減少、グローバル化への対応等、現代世界における日本の国土の特色や諸課題について、個人や国、国際社会等からの多角的で客観的な視点を身に付けている。 ・日本がかかえる地理的な諸課題を探究する過程において、主体的に課題を設定して探究し発表するという過程を通し、課題解決への視点や方法を身に付けている。 		

令和5年度 教育計画 (シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
人文社会科学科	3	人文社会	世界史探究	4
教科書		補助教材		
世界史B新訂版(実教出版)		最新世界史図説タペストリー十九訂版(帝国書院)、必携世界史用語(実教出版)		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会・政治を規定する19世紀以降の世界史の大きな枠組みと流れを、政治・経済史を中心に理解させる。 ・文化の多様性や現代世界の特質を広い視野から考察させ、理解を深めさせる。 ・諸事象の本質をその歴史的な形成・展開の過程の実証的な考察によってとらえる手法を用い、現代社会と政治に対する洞察力・個人的識見を身につけさせる。 			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③資料活用の技能	④知識・理解
	世界の政治史の大きな枠組みと流れに対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求しようとする。	現代社会の特質や文化の多様性を多面的に考察し、国際社会の変化をふまえて公正に判断する。	諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追求する方法を身につける。	世界の近現代政治史の大きな枠組みと流れを把握し、基本的知識を身に付けているとともに、多面的に考察する力を身に付ける。
学習の評価	1 定期考査で②「思考・判断・表現」、③「資料活用の技能」、④「知識・理解」を評価する。 2 課題の提出状況及び確認テストで①「関心・意欲・態度」を評価し、授業中の諸資料の活用で③「技能・表現」を評価する。1の評価に2を加味し、総合的に評価する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価規準)		
第10章 アジア諸地域の帝国と第2次大戦 交易時代	<ul style="list-style-type: none"> ・明・清帝国と東アジア諸国家との関係、東南アジア海域世界とイスラーム世界の動向を扱い、16世紀から18世紀にかけてのアジア諸地域世界の特質を理解させる。 ・「主権国家体制」の歴史的意義を考察し、自分なりの歴史観を持つことができる。 ・絶対主義諸国家の共通点やそれぞれの特徴を理解できる。 			
第11章 環大西洋革命とパクス=ブリタニカ	<ul style="list-style-type: none"> ・各国間の植民地抗争を、成立する世界商業ネットワークと関連づけながら理解できる。 ・世界市場の形成とヨーロッパのアジア進出、並びにアジア諸国の動揺と改革を具体的な事項とともに理解できる。 			
第12章 近代ヨーロッパ・アメリカの国民国家	<ul style="list-style-type: none"> ・典型的市民革命としての英・米・仏革命の背景と進展を理解し、近代国民国家・市民社会の形成への寄与を考察できる。 ・産業革命がもたらした経済・社会・政治全般における影響と問題点を自分の言葉で説明できる。 ・帝国主義という抽象的概念を理解し、具体的事象としてどのような現象が起こるか説明できる。 			
第13章 地球をおおう帝国主義と世界諸地域の抵抗	<ul style="list-style-type: none"> ・植民地をめぐるヨーロッパ諸国の競合とそれに対する植民地の抵抗を扱い、19世紀後期から20世紀初頭の世界の支配・従属を伴う一体化と社会の変容を理解させる。 			
第14章 二つの世界大戦	<ul style="list-style-type: none"> ・帝国主義戦争の極致としての第一次大戦とその後の世界秩序、それに抵抗する民族運動の特徴を概観できる。 ・世界恐慌が資本主義を大きく変容させ、世界状況を協調から戦争へと一変させたことを理解する。 ・第二次世界大戦の持つ複雑な性格を理解した上で、人類史上最悪の甚大な被害を具体的な事例をもとに把握する。 			
第15章 冷戦から多極的国际社会へ	<ul style="list-style-type: none"> ・冷戦構造の成立と動揺を学び、世界が次第に多極化してゆく姿を理解する。 			
第16章 グローバリゼーションと地球環境の危機	<ul style="list-style-type: none"> ・冷戦の終結とあらたな問題を考察し、自らの生きる社会を世界史の中で位置づけることができる。 			

令和5年度 教育計画 (シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
普通科	3	人文社会	世界史探究	4
教科書		補助教材		
世界史B新訂版(実教出版)		最新世界史図説タペストリー十九訂版(帝国書院)、必携世界史用語(実教出版)		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会・政治を規定する19世紀以降の世界史の大きな枠組みと流れを、政治・経済史を中心に理解させる。 ・文化の多様性や現代世界の特質を広い視野から考察させ、理解を深めさせる。 ・諸事象の本質をその歴史的な形成・展開の過程の実証的な考察によってとらえる手法を用い、現代社会と政治に対する洞察力・個人的識見を身につけさせる。 			
評価の観点	① 関心・意欲・態度	② 思考・判断・表現	③ 資料活用の技能	④ 知識・理解
	世界の政治史の大きな枠組みと流れに対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求しようとする。	現代社会の特質や文化の多様性を多面的に考察し、国際社会の変化をふまえて公正に判断する。	諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追求する方法を身につける。	世界の近現代政治史の大きな枠組みと流れを把握し、基本的知識を身に付けているとともに、多面的に考察する力を身に付ける。
学習の評価	1 定期考査で②「思考・判断・表現」、③「資料活用の技能」、④「知識・理解」を評価する。 2 課題の提出状況及び確認テストで①「関心・意欲・態度」を評価し、授業中の諸資料の活用で③「技能・表現」を評価する。1の評価に2を加味し、総合的に評価する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価規準)		
第10章 アジア諸地域の帝国と第2次大戦時代	<ul style="list-style-type: none"> ・明・清帝国と東アジア諸国家との関係、東南アジア海域世界とイスラーム世界の動向を扱い、16世紀から18世紀にかけてのアジア諸地域世界の特質を理解させる。 ・「主権国家体制」の歴史的意義を考察し、自分なりの歴史観を持つことができる。 ・絶対主義諸国家の共通点やそれぞれの特徴を理解できる。 			
第11章 環大西洋革命とパクス=ブリタニカ	<ul style="list-style-type: none"> ・各国間の植民地抗争を、成立する世界商業ネットワークと関連づけながら理解できる。 ・世界市場の形成とヨーロッパのアジア進出、並びにアジア諸国の動揺と改革を具体的な事項とともに理解できる。 			
第12章 近代ヨーロッパ・アメリカの国民国家	<ul style="list-style-type: none"> ・典型的市民革命としての英・米・仏革命の背景と進展を理解し、近代国民国家・市民社会の形成への寄与を考察できる。 ・産業革命がもたらした経済・社会・政治全般における影響と問題点を自分の言葉で説明できる。 ・帝国主義という抽象的概念を理解し、具体的事象としてどのような現象が起こるか説明できる。 			
第13章 地球をおおう帝国主義と世界諸地域の抵抗	<ul style="list-style-type: none"> ・植民地をめぐるヨーロッパ諸国の競合とそれに対する植民地の抵抗を扱い、19世紀後期から20世紀初頭の世界の支配・従属を伴う一体化と社会の変容を理解させる。 			
第14章 二つの世界大戦	<ul style="list-style-type: none"> ・帝国主義戦争の極致としての第一次大戦とその後の世界秩序、それに抵抗する民族運動の特徴を概観できる。 ・世界恐慌が資本主義を大きく変容させ、世界状況を協調から戦争へと一変させたことを理解する。 ・第二次世界大戦の持つ複雑な性格を理解した上で、人類史上最悪の甚大な被害を具体的な事例をもとに把握する。 			
第15章 冷戦から多極的国際社会へ	<ul style="list-style-type: none"> ・冷戦構造の成立と動揺を学び、世界が次第に多極化してゆく姿を理解する。 			
第16章 グローバリゼーションと地球環境の危機	<ul style="list-style-type: none"> ・冷戦の終結とあらたな問題を考察し、自らの生きる社会を世界史の中で位置づけることができる。 			

令和5年度 教育計画 (シラバス)				
学科名	学年	教科	科目	単位数
普通科・人文社会科学科	3	人文社会	公民探究	4
教科書		補助教材		
高校倫理新訂版(実教出版) 高校政治・経済新訂版(実教出版)		テオリア 最新倫理資料新版三訂(第一学習社)、倫理用語集(山川出版社) 最新図説政経(浜島書店)、政治・経済用語集(山川出版社)		
到達目標	広い視野に立って、現代の社会について主体的に考索させ、理解を深めさせるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を育て、民主的、平和的な国家・社会の有為な形成者として必要な公民としての資質を養う。			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③資料活用の技能	④知識・理解
	人間尊重の精神と自己形成について関心を高め、人格の形成と生きる主体としての自己の確立に努める実践的意欲をもつとともに、これらにかかわる諸課題を探究する態度を身に付け、人間としてのあり方生き方について自覚を深めようとする。 現代の政治、経済、社会、国際関係などにかかわる基本的な問題や課題にかかわる事柄に関心をもち、意欲的に探究しようとしている。	生きる主体としての自己の確立について広く課題を見だし、人間の存在や価値などについて多面的・多角的に考察し探究するとともに、良識ある一公民として広い視野に立って主体的かつ公正に判断し、追究・考索した過程や結果を様々な方法で適切に表現できる。 現代の政治、経済、社会、国際関係などにかかわる基本的な問題、人間にかかわる諸課題の本質や特質、さらには望ましい解決のあり方について広い視野に立って多面的、多角的に考察し、そこに到る過程や結果を様々な方法で適切に表現できる。	青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などに関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を主体的に選択して、これらを自己形成に資するよう活用し、 現代の政治、経済、社会、国際関係などにかかわる基本的な問題や重要な課題にかかわる事柄に関する諸資料をさまざまなメディアから収集し、有用な情報を適切に選択・活用することができる。	青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などにかかわる基本的な事柄を、生きる主体としての自己確立の課題とつなげて理解し、人格の形成に生かす知識として身に付けている。 現代の政治、経済、社会、国際関係にかかわる基本的な事項や課題について体系的、総合的に理解し、その知識を身に付けている。
学習の評価	1 定期考査で②「思考・判断」、②「表現」、④「知識・理解」を評価する。 2 課題の提出状況及び進学模試、授業中の諸資料の活用などで、①「関心・意欲・態度」、③「技能」を評価する。 1の評価に2を加味し、総合的に評価する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価規準)		
倫 理 分 野	第1編 青年期の課題と人間の自覚 1 青年期の課題と自己形成 2 人間としての自覚 3 日本人としての自覚	人間の定義、人生における青年期の位置とその課題を考察することができる。古代日本人の考え方や生き方、風土との関連や言葉の使い方などをもとに、日本人の人間観・自然観について考える。仏教、儒教の考え方について理解することができる。 より豊かな自己実現のための、生きることについての主体的な思索を理解することができる。宗教が人生にどのような意味を持つかを考える。美への感動と愛の関連について理解し、芸術の意義について考えることができる。 わが国の先人たちが、西洋の近代思想をどのように受容し、日本の伝統思想とどのように統合しようとしたかを理解することができる。		
	第2編 現代と倫理 1 現代に生きる人間の倫理 ・人間の尊厳 ・科学・技術と人間 ・民主社会と自由の実現 ・社会と個人 ・人間への新たな問い ・社会参加と幸福 2 現代の諸課題と倫理 ・生命、環境、家族についての倫理 ・地域社会、高度情報化社会の課題 ・国際平和と人類の福祉の課題	近代的な人間尊重の考え方が、自然や社会などに対する見方を変えていったことを理解することができる。 個人の尊重と民主主義の倫理、個人と国家の関係などを理解することができる。 理性中心の考え方ではなく、自由で主体的に生きる人間の生き方を理解することができる。 現代の科学技術の自然観の再検討の必要性を理解することができる。 現代の課題について実態と問題点を理解し、具体的な問題について考察することができる。		
政 治 ・ 経 済 分 野	第1編 現代の政治 1 民主政治の基本原則 2 日本国憲法の基本的性格 3 日本の政治機構 4 現代日本の政治 5 現代の国際政治	民主主義の本質について理論的・体系的に理解を深め、現代の政治、経済、国際関係などについて客観的に理解するとともに、現実の情勢を主体的に探究する態度が身につけることができる。 日本国憲法の基本原則、日本の政治機構、現代の政治の諸課題について理解を深め、法の支配の意義や現実の社会における法の機能、国民の司法参加の意義や課題についても考察することができる。		
	第2編 現代の経済 1 経済社会の変容 2 現代経済のしくみ 3 現代経済と福祉の向上 4 世界経済と日本	現代経済のしくみを基礎的な経済理論の観点から理解するとともに、国民経済の動向および、政府の役割と日本経済が抱える課題などについて考察することができる。		
	第3編 現代社会の諸課題 ①地域社会をいかに活性化するか ②中小企業の新しい変化 ③農業、農村と食料、環境問題 ④雇用と労働をめぐる問題 ⑤これからの社会保障のあり方 ⑥地球環境の保全と経済成長 ⑦原子力と再生可能エネルギー ⑧人種・民族問題	国際社会の現状と諸課題について理解し、国際社会に生きる日本の役割について考察し、それを踏まえて、現代社会の諸課題について主体的に考察するとともに公正な判断力を養い、良識ある公民としての必要な能力と態度を身につけることができる。		

⑨国際経済格差の是正と国際協力

⑩国際社会における日本の立場と役割

令和5年度 教育計画 (シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
人文社会科学科	3	人文社会	日本史研究	1
教科書		補助教材		
詳説日本史(山川出版社)		図説日本史通覧・史料日本史・日本史B用語集		
到達目標	1 わが国の歴史の枠組みや流れを、主に文化・社会面を中心に理解させ、基本的な知識を身に付けさせる。 2 歴史事象の原因や背景、因果関係などを多面的に追求し、歴史の見方・考え方を身に付けさせる。 3 わが国の歴史の展開を、世界史的視野に立って総合的に考察させ、自国の文化と伝統の特色について認識を深めさせる。 4 歴史学習における資料の重要性を理解させるため、資料を中心とした学習を行う。			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③資料活用 of 技能	④知識・理解
	日本史に対する興味・関心を高め、課題や疑問に対して意欲的に追求しようとする。	日本史を世界史的視野に立って総合的に考察し、自国の文化と伝統の特色について認識を深め、公正に判断できる。	歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して、歴史的な見方・考え方を身に付ける。	歴史の大きな枠組みと流れを把握し、基本的知識を身に付けるとともに、それぞれの時代背景を理解し、その知識を身に付ける。
学習の評価	1 定期考査で②「思考・判断」、③「表現」、④「知識・理解」を評価する。 2 レポートや課題の提出状況及び確認テストで①「関心・意欲・態度」を評価し、授業中の諸資料の活用で③「技能・表現」を評価する。1の評価に2を加味し、総合的に評価する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価規準)		
第3編 近世の社会・文化と国際社会 第2章 産業経済の発展と文化 第3章 国際環境の変化と幕藩体制の動揺 第4編 近代日本の形成と東アジア 第1章 明治維新と立憲体制の成立 第2章 国際関係の推移と立憲国家の展開		<ul style="list-style-type: none"> 幕藩体制を支える朱子学の特徴を知り、武断政治から文治政治への転換の様子に注目する。 商品経済の発展や農民層の分解という幕藩体制の構造的矛盾に着目しながら、幕府・諸藩の政治改革のあり方を理解する。 封建社会の動揺、幕政改革の矛盾、欧米列強の接近と関連させて、国学・蘭学などの新しい学問による思想の変革及び化政文化の諸相について理解する。 明治新政府が強力な中央集権体制の樹立をめざして諸制度の改革を進めたことに着目し、近代日本の特色を理解する。 大日本帝国憲法制定の意義と、その限界や問題点について考察する。 日本の大陸政策が清、ロシアと対立するに至った事情を、世界史の動向および日本資本主義の発達と関連させて理解する。 近代産業の発達の諸相と労働者階級に注目し、近代における日本の経済構造の特色を考察する。 学問の発展や教育制度に着目して、日本の近代文化の特色について考察する。 		
第5編 二つの世界大戦と日本 第1章 第一次世界大戦と日本 第2章 第二次世界大戦と日本 第6編 第二次世界大戦後の日本と世界 第1章 戦後日本の動向と国民生活 第2章 東西冷戦と日本の動向 第3章 現代の日本と世界		<ul style="list-style-type: none"> 第一次世界大戦の経緯とその影響を把握し、戦時期日本の経済発展と社会運動の高揚について理解する。 護憲運動や政党政治の展開、民本主義・天皇機関説を通して、大正デモクラシーの思潮を理解する。 東京を中心とする都市文化の特色について理解する。 相次ぐ恐慌による政治的・経済的危機を背景に、軍部・右翼が台頭し、日本の中国侵略へと進展していく過程を理解する。 太平洋戦争が国民生活に及ぼした影響について、写真・文献・統計などさまざまな資料を通して考察する。 占領政策における民主化・非軍事化の内容を理解するとともに、学問・言論の自由のもとで展開した文化について考察する。 日本の現代社会の状況を把握し、日本が当面している多くの課題を認識する。 世界平和の実現や南北問題、地球規模での環境破壊の解決のために日本が今後何をすべきか考える。 		

令和5年度 教育計画 (シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
人文社会科学科	3	人文社会	地理研究	1
教科書		補助教材		
詳解地理B(二宮書店)新詳高等地図(帝国書院)		新詳地理資料2022(帝国書院), 2022データブックオブザワールド(二宮書店), 22サクシード地理, ウイニングコンパス		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地理Bの学習内容を, 自らが設定したテーマをもとに, さらに深化させることができるよう, 資料研究などをおして, 現代社会の諸地域を歴史的背景を踏まえて系統的・地誌的に考察する。 ・生徒各自が特定の系統的地理的内容(自然環境・資源・産業・民族など)か地誌的内容からテーマを設定し, 資料研究で内容を深化させ, 互いに発表する。 			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③資料活用の技能	④知識・理解
	現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め, それを意欲的に追究するとともに, 国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとする。	現代世界の地理的事象から課題を見だし, それを系統的地理的, 地誌的に考察するとともに, 国際社会の変化を踏まえて公正に判断し, その過程や結果を適切に表現している。	地図や統計, 画像など地域に関する諸資料を収集し, 有用な情報を選択, 活用することを通して現代世界の地理的事象を追究する技能を身に付ける。	現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追究の方法を理解し, その知識を身に付けている。
学習の評価	1 各自の個別研究をレポートとして提出する。また, それらの内容についての発表を行い, 討論によりさらに内容を深める。 2 定期考査で②「思考・判断・表現」, ③「資料活用の技能」, ④「知識・理解」を評価する。 3 課題の提出状況及び確認テストで①「関心・意欲・態度」を評価し, 授業中の諸資料の活用で③「資料活用の技能」を評価する。1の評価に2を加味し, 総合的に評価する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価規準)		
以下の内容を中心に個人研究テーマを一つ設定する。 第Ⅱ編 現代世界の系統地理的考察 1章4節 環境問題 2章1節 農林水産業の食料問題 2章2節 資源・エネルギー問題 3章1節 人口問題		<ul style="list-style-type: none"> ・人口・食料問題, 環境・エネルギー問題や領土問題を世界的視野から地域性を踏まえて追求し, それらの解決には地域性を踏まえた国際協力が必要であることについて理解する。 ・自然環境や社会環境の違いによって生活と密着した衣食住の違いが生じることを理解する。民族問題を世界的視野から地域性を踏まえて追求し, それらの解決には地域性を踏まえた国際協力が必要であることについて理解する。 		
以下の内容から個人研究テーマを一つ設定する。 第Ⅲ編 現代世界の地理的考察 <ul style="list-style-type: none"> ・変化に富んだ地形と気候の東アジア ・モンスーンの影響をうける東南アジア ・三つに分けられる地形の南アジア ・乾燥した大地が広がる西・中央アジア ・赤道を軸として南北で対照的なアフリカ ・高緯度でも温暖なヨーロッパ ・広大な国土と多様な自然のロシア ・南北東西で異なる自然環境の北アメリカ ・南北と標高で異なるラテンアメリカ ・一つの大陸と島々からなるオセアニア ・世界と結びつく日本 		<ul style="list-style-type: none"> ・現代世界の国家群や貿易, 交通・通信などの現状と課題を地域の環境条件と関連付けて追究し, 国家間の結びつきを地理的に考察できる。 ・国家規模の地域を地誌的にとらえる視点や方法を身に付けている。 具体的地域の例－韓国, オーストラリア, アメリカ合衆国－ ・州, 大陸規模の地域を地誌的にとらえる視点と方法を身に付けている。 具体的地域の例－西アジア・中央アジア, ヨーロッパ, 東南アジア－ ・近隣諸国の生活・文化を地域の環境条件と関連付けて追究し, 日本との共通性や異質性及び異文化を理解し尊重できる。また, 近隣諸国との交流のあり方や日本の役割を理解する。 具体的地域の例－中国・ロシア 		